

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームさんりく

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームさんりく		
所在地	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来所通91		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、小規模多機能型施設と併設しており、同地区の方や昔からの知り合いの方も多く利用されております。コロナ前は、一緒にお茶を飲んだり、会話をしたり、活動へ参加したりと常に行き来して交流の場もありましたが、現在は感染防止の為に交流する機会も少なくなっております。その中でも「夏祭りや敬老会」などの大きなイベントは、感染対策をしながら合同で開催し楽しんでいます。また、医療面では主治医と常に連絡を取り合いながら健康管理に努め、利用者やご家族が常に安心して過ごして頂いております。職員は事業所の基本理念「地域と共に、その人らしく」を掲げ、日々「その人らしく」生活が送れるように職員同士で話し合いながら個別ケアに取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸福祉会は旧三陸町による公立民営の老人福祉の拠点としてスタートし、今年30周年を迎えている。この間東日本大震災により壊滅的被害を受け、現在地に移転した。コロナ禍でのクラスター発生などの様々な課題を乗り越え、現在も地域に根つき高齢者支援の中心となっている事業所である。医療との連携により、看取りを希望される方が安心して最期を迎えることができる体制ができている。コロナ禍により外出が減ってきているが、利用者の体調を見つつ感染対策を行いながら小学校の運動会に出かけたりしている。利用者ごとの毎日の様子を記した一日行日誌を作成し毎月家族に送付しており、大好評を得て家族との絆の維持に一役果たしている。認知症であっても自然であることが一番、利用者の楽しい日々をお手伝いすることが私たちの仕事と言い切る職員に見守られ、利用者は笑顔で過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、職員全員で掲げた理念について「どうであったか？現状にあっているか？」を振り返りながら考えている。掲げた理念について、職員全員で目標や具体的取り組みを考え少しでも達成できるよう取り組んでいる。	「地域と共に、その人らしく」という理念を具体化した基本方針を作成し、さらに年間の重点目標と具体的な取り組みが明示され、職員各自が何をすれば良いかを考える拠り所となっている。PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルの実践により、理念の具現化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ5類になり小学校からの運動会の招待もあり、感染予防対策をしながら観戦する事ができた。その中で、久ぶりに会う地域の方々からも声を掛けて頂き大変喜ばれていた。また、多機能との合同「敬老会」も実施でき大変盛り上がった。	地元の小学校の運動会に招待をいただき、子どもたちが一生懸命走る姿を身を乗り出して旗を振って応援することができた。文化祭は体調不良により参観できなかった。写真が沢山掲載された園だよりを地域に回覧し、楽しみながら見ていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報委員会の中で、定期的に地域に広報を回覧し利用者の日々の生活の様子や地域の方々に役立つ情報等を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、初回7月開催にて3ヵ月/1回は開催していく予定であり、今のところ予定通り開催できている。初回には事業計画はじめ取り組み内容、現状報告を行いさまざまなご意見を頂いた。今後、ご意見・要望に答えられるよう検討しサービスに活かしていく。	運営推進会議は、地区公民館長、民生児童委員、老人クラブ代表、利用者家族代表、歯科診療所長、駐在所、消防分署、市担当課長と、地域の主だったメンバーと行政関係者で構成されている。災害時の避難や福祉避難所としての運営、事業所の事業計画等について様々な意見をいただき、事業所として真摯に取り組んでいる。	利用者の様子や活動状況を委員の方に見ていただいたり、次回開催日と意見交換のテーマを予め設定することにより、2ヵ月毎の開催に努められることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂く事で、事業所の状況や取り組み内容などを伝えられている。10月に開催された会議では「福祉避難所」についての説明も頂き、これからも意見交換を行いながら協力体制を築いていきたい。	施設全体が福祉避難所に指定されており、避難時の場所等は確保されている。今後、市の方針をもとに避難時の具体的な体制を作りたいと考えている。要介護認定申請のために窓口に出かけたり、新規入所希望者の相談等でのやり取りが多く、関係は良好である。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束検討委員会に事業所担当職員が参加し、事業所での身体拘束が行われていないか？などを報告している。また、委員会内容について事業所会議で報告している。また、内部研修に参加し「身体拘束とは」「行為や弊害」等を理解してケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修会は法人全体で開催している。それぞれの部署が一緒になったグループを編成し、事例をもとに話し合っており、新しい気づきを得られる場となっている。定期的に身体拘束の項目を職員自らチェックしている。管理者は、なるべく薬等で動きを抑えたくないとして、医師と相談して減薬に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待委員会担当者は、毎月開かれる委員会で虐待が行われていないか等を報告している。また、委員会での取り組みや会議内容について事業所会議で報告し周知している。また、内部研修への参加を呼びかけ学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を理解できている職員は少ない。内部・外部研修を通して知識や制度を理解出来るよう取り組んで行く。 現時点では、成年後見制度を利用されている入所者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事前にご家族立会いにて、十分に説明・理解・納得して頂けるよう努めている。また、介護改定等には、文書を送付した上で、質問等に応じ十分理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に、入所者の状態報告に加え要望や希望をご家族へ聞くなどしている。ご利用者については、日々の会話の中で意向や要望を聞き取りながら支援に反映している。	普段から担当者が中心となり希望を聞き取り、キャッチボールや将棋、買い物、食べたい物などの希望をできるだけ叶え、利用者の笑顔が引き出されている。家族の希望により、利用者が住み込みで働く設定で生活することを支援したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員とのコミュニケーションを図りながら意見や提案を聞き入れている。また、毎月開催される会議でも意見を出し合いながら、運営に反映している。	職員が話しやすい雰囲気が作られている。利用者の希望を実現するため職員が提案したことも多々ある。勤務の変更希望があれば、職員間で話し合い譲り合うこともある。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については、職員個々のライフスタイルに合わせ、本人の希望を取り入れながら行っている。また、職員個々のレベルアップに繋がるよう研修へ参加しやすいように勤務表へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、職員の資格取得について、費用等の助成や資格手当の創設、取得方法等の情報提供を行っている。また、全職員が「PDCA」に取り組み、各自が目標を達成できるよう定期的にアドバイスをを行っている。仕事の中でも、問題に対し自ら考え、行動できるようアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会や内部研修などで他事業所(職員)との交流を持つ機会を設け、意見交換をしながらサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入した段階で、常に目を配り、気配りをしながら本人の不安や困っている事に耳を傾け、視線を合わせ話を聞き理解しながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談において、ご家族の要望や希望を伺いながらサービス内容を確認し、話しやすい関係となれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話に真摯に向き合い、今、必要な支援を見極め、各施設・事業所等と連絡を取り合いながら対応している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人とコミュニケーションを図りながら会話の中で「思いや、出来る事、したい事」を見つけ出し、生活の中で共に生活している思いを抱くように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者の日々の暮らしや状態など「一行日誌」として毎月ご家族へ郵送している。また、面会時には職員も一緒に付き添い、ご家族との会話が楽しくできるだけ長い時間で会話が出来て絆が深められるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに出掛け、顔なじみの方と会える機会を設け、会話ができるよう支援している。また、定期的に理容・美容の訪問の機会を設け関係が切れないようにしている。	家族が美容室に付き添ったり、病院で顔見知りの方と話をしたりしている。併設の小規模多機能ホームの利用者も顔なじみの方が多く、自由に行き来ができています。一行日誌で日ごろの様子を家族に伝え、馴染みの人とのつながりの維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者個々の性格や互いの共通性を把握し、座席の工夫を行ったり、皆で余暇活動を行いながら互いに支えながらより良い関係がもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了については、ほとんどがお亡くなりになったケースですが、ご家族との関係性は、終了後も、困った事があればいつでも相談に応じることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で「本人がどうしたいか」という事を考え支援に心がけている。意思表示の困難な方に対しては、表情や行動などから今の思いを知るように関わりをもち、本人の視点に立って意見を出し合いながら努めている。	日々の会話から利用者の思いを探ることに努めているが、なかなか把握が難しい場合が多い。残食の量で体調を推し測ったり、ちょっとした表情の変化や動きから意向を推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階だけでなく、常日頃の会話やご家族からの情報などから、これまでの暮らし方・生活環境等を把握するように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は介護日誌・看護日誌・申し送りノート・申し送りで共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、担当入所者の個別ケア計画を作成し取り組んでいる。日々の様子や気づいた事などはケース記録や申し送りノートへ記入し情報を共有しながら対応している。また、定期的に担当職員は評価し、職員間で検討しながらケア内容を変更したりしている。計画書、評価表はご家族にも確認して頂いている。	毎月の会議で利用者全員の変化について確認し、情報共有を図っている。モニタリングは会議での情報や家族からの聞き取りをもとに3か月毎に行い、6か月毎の見直しにつなげている。排泄の方法や食事の形態等の変更は、個別計画で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や重要事項などはケース記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有できるようにしている。計画の見直しは情報を活用し、職員間で検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望により、一時帰宅や外出等の対応はできている。また、ご本人やご家族の状況に応じ、買い物等の代行や衣類の補充など必要な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物やドライブ、地域行事など、ご本人の意向をもとに資源の活用を心掛けている。今後もより意向に沿った支援が行われるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族様の希望を確認し決定している。殆どのご家族は遠方にある為、定期受診については管理者または看護師が対応している。受診の際には、本人の健康記録等を持参し医師に報告し指示をもらっている。受診結果については、その都度ご家族へ報告し安心して頂いている。急変時については、訪問診療をして頂いている。	かかりつけ医の受診が継続されている。半分位の家族が遠方におり管理者が受診付き添いを行い、受診結果については電話で説明している。家族が付き添いを行っている方もある。利用者の状態によっては往診をお願いしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があった場合は、速やかに看護師に報告し判断して、主治医へ連絡をとってもらっている。(24時間体制で相談はできる)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される場合は、本人の情報提供(サマリー)を提供し、ご家族や医療機関と情報交換を行いながら安心して治療ができるように努めたい。今のところ入院された利用者はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に確認しているが、その時の状態変化に応じて、その都度ご家族へ連絡し再確認を行っている。その際は、管理者はご家族と共に主治医から十分に説明を受けている。	重度化した場合は主治医が家族に状態を説明し、今後どうしたいかについて意向を確認している。自然な形で看取りを望む方が多く、家族や友人に囲まれた中で安らかな最期を迎えている。利用者の状態に合わせての往診や緊急時の相談が可能な体制ができており、安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し看護師からの指導をして頂きながら実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合訓練や土砂災害避難訓練を実施している。総合訓練では、消防署立会いのもと実施されご意見を頂きながら見直しをしている。また、運営推進会議推進委員に分署長も参加して頂きながら協力体制を築いている。	法人全体で避難訓練を行っている。夜間想定訓練や職員招集訓練も行っている。ハザードマップ上土砂災害警戒区域となっており、事業所では3階への垂直避難をすることとなっている。コロナ禍前は地域の方の協力を得ながら避難訓練を行っていた。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴も踏まえ、言葉や口調に気をつけ、その人に合った声掛けを行っている。また、排泄・入浴の介助の際はプライバシーや自尊心を損なわないように本人の立場に立って対応するように努めている。	職員は利用者が1日を楽しく過ごすことができるように支援している。自分でできることは自分でやれるよう機能維持を目指し、ラジオ体操や歌を日課としている。利用者の楽しみを支えることを優先とする支援が利用者の笑顔を引き出している。	
----	------	--	--	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心掛け、意思表示の困難な方に対しては「本人ならどうしたいのか」という本人主体となる考え方を念頭におき、可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを維持するために、1日の流れは大まかに決まっているが、食事時間や入浴時間など個々のペースや希望に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面から時始まり、整髪・衣類の身だしなみは目を配り支援している。また、行事の際にはご家族と連絡を取り合い、着せたい服を持参して頂いたり、本人が着たい服を聞きながら準備するなどしている。理容美容については、ご家族や理容店の方に訪問して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、片寄りがないように職員がお互いに献立を確認しながら作っている。また、食べたい物や個々に好きな物を聞きながら提供している。盛り付けや食後の食器洗いなど、出来る方に声を掛け職員と一緒に会話しながら行っている。	当番の職員が希望を聞きながら調理を行っている。メニューは法人の管理栄養士にチェックを受け、助言を献立に反映している。おやつも手作りで利用者が団子を丸めたり胡麻をすることもあり、利用者の体調に合わせた調理を行っており、現在はミキサー食の方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックし把握に努めている。また、栄養バランスについては、献立表を毎月1回管理栄養士に確認して頂き、アドバイスをして頂いている。健康状態を把握しながら随時、その時の状態に合わせて工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・誘導、介助を行い、就床前にはポリドントを使用し消毒を行っている。うがいができない方については、口腔ケアを実施している。また、口腔内に異常が見られた場合は、歯科へ連絡し訪問診療を行って頂いている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、1日の排泄パターンを把握し、定期的な声掛けやトイレ誘導を行うことで失禁も減少し、入所当時はリハビリを使用されていた方も布パンツに変更されている。自立されている方には、さりげなく見守りながら汚染が無いが確認しながら支援している。	オムツ使用の方は1名、他の方は尿意があり、立ち上がり様子などを見ながら声掛け、誘導している。日中は布パンツに尿取りパットを併せて使用の方が6名おり、定期的な声掛けを行い、失禁時はパット交換を行っている。夜間のポータブルトイレは2名の方が使用している。リハビリパンツにパット利用から布パンツにパット利用に改善した方が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、水分補給や乳製品、食物繊維の多い食事を作り提供できるだけ薬に頼らず自然排便ができるよう努めている。また、状態によっては主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	1週間のうち6日間は入浴できるように設けている。入所者の状態によって、個浴、機械浴と使用しながら支援し、入浴日に本人の健康状態を確認した上で入浴している。当日、体調不良や気分によって入浴出来ない場合は変更しながら対応し、入浴の際には、ゆっくりと本人とコミュニケーションを図りながら行っている。	月曜日から土曜日までの午後入浴できるようになっており、週2回は入浴できるように声掛けをしている。浴槽の跨ぎが難しい利用者3名は併設の小規模多機能で機械浴ができるようになっており、状態によっては職員2名で介助している。入浴を嫌がる場合でもタイミングを見ながら声掛けをし入浴できている。入浴剤等の使用でゆったりと入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中の活動を多く提供し安眠できるように努めている。また、個々のリズムに合わせて就床時間も好きなテレビを見て頂きながら過ごして頂き、本人の状況を見ながら就床時間の声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、内服薬の用法、副作用について理解し間違いのないように職員2名で声を掛け合いながら確認し服薬介助を行っている。また、病状の変化を観察し必要時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いや洗濯たたみなど入所者自ら職員に声を掛け日課として手伝って頂いている。また、色塗りやレク・歌などを行い、毎日に生活が楽しく過ごせるように支援している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外へ行きたい場合など、職員が付き添い園外を散歩したり、買い物希望された場合は、職員と一緒に掛かけたりとその都度、本人の希望に添えるよう支援している。また、お盆やお正月などご家族より外泊の希望があった際は対応している。	外出はいつでもいいよと伝えており、敷地内に建立された観音様を拜みに出かけたり、近くのスーパーに職員と一緒に出かけている。何人かずつ希望者を取りまとめてドライブに出かけたり、受診の後、家族と寄り道をする事もある。お盆等には3名程が外泊、外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金は管理者が管理している。排泄用品や受診料、理容・美容・買い物などに使用し、毎月「金銭出納簿」を記入しご家族へ郵送にて報告している。自己管理できる方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでもご家族と自由に連絡が取れるように希望に応じ支援している。また、ご家族や知人からの手紙の返事や年賀状など職員が手伝いながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明の調整、室温や温度調整、換気・消毒等清潔で心地よく過ごせるように努めている。また、職員・入所者と一緒に作りながら装飾し、季節感を取り入れながら快適な環境作りを心掛けている。	暖色系の照明により落ち着いた雰囲気が醸し出され、床暖と空調、加湿器の使用により心地よく過ごすことができている。共用空間にはソファやテーブル、テレビ等が配置され、柿や木の実などの壁面飾りが季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールやソファで自由に過ごしたり、多機能ホームへ行って過ごしたりとその日の利用者の状態や思いに合わせて過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、自宅で使い慣れた家具や馴染の物を持ち込めることを説明している。また、入所者が自ら作った作品や、ご家族からの贈り物など自室へ飾るなど心地よく過ごせるように努めている。	木目調の壁、床で、窓側は障子窓となっており、落ち着いた雰囲気である。ベッド、筆筒、洗面台が備え付けられ、利用者はテレビや仏壇、筆筒等を持ち込み、家族写真なども飾ってある。居室の1室が陰圧室となっており、感染症の発生時の使用が想定されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設設備は安全面に配慮された作りになっている。利用者の中には自分の居室やトイレを迷う方もおり、居室入口に名前を張ったり、トイレへ張り紙をすることで間違える事無く入ることができている。危険個所を職員は把握し安全に生活できるよう支援している。		